

株式市場新聞

www.marketpress.jp

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



1 第377号

日経平均株価

4万0369円44銭

▲201円37銭(前日比)

TOPIX

2768.62

▲17.81(前日比)

2024
4/1
月曜日

最高値圏の市場動向占う

2月期企業の決算発表始まる

名実ともに新年度に入り2月期企業から通期決算発表が始まる。小売りセクターが多く占める2月期企業はインバウンド消費に対応した企業の業績拡大が目立つことに加え、物価高に対し価格戦略や高付加価値化などによる顧客満足度向上が業績拡大の鍵を握る。また、小売以外については3月期決算企業の決算動向を占ううえで、半導体製造などに絡む企業は特に注目されそう。最高値圏にある株式市場の動向を占う上で注目される決算シーズンになる。

安川電やイオンなど注目

インゲス(3)

小売り大手ではイオン(8267)が4月上旬に決算発表を行うが、2月度の



百貨店はインバウンドの恩恵を受ける

月次でスーパーマーケット事業は、主要企業10社計の既存顧客数が8カ月連続で前年を上回るとともに、既存店売上高は12カ月連続で前年実績を上回っている。次期はツルハホールディング(8244)などが期待できそう

1)とウエルシアホールディングス(3141)との経営統合効果も期待される。百貨店各社に関してはインバウンド消費拡大の恩恵を受けており、12日発表予定の高島屋(8233)や15日発表予定のJ・フロントリテイリング(3086)、関西圏では10日発表予定の近鉄百貨店(8244)などが期待できそう

日経平均の日足チャート



だ。小売り以外では15日発表の東宝(9602)は第96回アカデミー賞視覚効果賞を受賞した「ゴジラ-1.0」効果が期待される。同社では海外戦略を推進しており、次期の公期待したい。

表面化すれば更なる業績拡大への期待が高まる。

そして3月期決算企業の動向を占う上では5日発表予定の安川電機(6506)が要注目となる。

先の第3四半期累計(3~11月)決算では連結営業利益で前年同期比3.3%減の465億4700万円となっていた。次期はACサーボモーター・コントローラ事業で半導体・電子部品向けの拡大を期待したい。

3月第4週の動意銘柄

理経がストップ高

今期大幅上方修正で増配

週明け18日、理経(8226)がストップ高。24年3月の業績予想について、連結売上高で1億1500万円から1億2100万円(前期比17.6%増)へ、営業利益で2億3000万円から4億6000万円(同2.1倍)へ大幅に上方修正、期

末一括配当を3円から5円(前期3円)へ引き上げた。システムソリューションで主として大学向けシステム案件の増加が寄与した。

東電力HD過度の期待後退

東京電力ホールディングス(9501)が急反落。14日は「柏崎刈羽原発の再稼働に向けて、経済産業省が来週にも新

潟県に対して、再稼働の理解を求める方向で調整している」と報じられたことで急伸したが、13日の参議院予算委員会では県内で、東京電力に対する不信感が根強いことについて、自民党の小林一大議員が政府の対応を質問していることもあり、過度な期待が後退し利益確定売りに押された。

ACCESS黒字転換

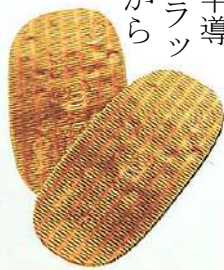
ACCESS(4813)がストップ高。25年1月期は連結営業利益で5億円と前期の1億5000万円赤字から黒字転換を見込んだ。ロイヤリティ・ライセンスを主体とするネットワーク事業は損益分岐点を超えれば売上高の成長に伴い急速に収益性が改善していく。

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は反落。日経平均は前の週から518円下落しています。前の週に大幅に上昇になった反動で利益確定売りが出やすいなか、日経平均採用銘柄入れ替えに伴うリバランス売りなど年度末特有の需給要因が上値を抑え、為替介入の警戒感も買いを抑制しました。ただ、権利付き最終日の27日に配当再投資への思惑から最も高値を更新する場面が落ち分約260円を考慮すれば底堅い動きでした。週末に米雇用統計発表を控え、引き続き上値は重く、週明けも4万円大台固めの動きが続くことが予想されています。為替の動向に神経質になりつつあることから、シフトが予想される一方、権利落ち日以降強い動きを見せているのはディスコなど半導体関連の一角で、IPOラッシュが続いていることから、引き続きAI・半導体関連銘柄を個別に狙う考えです。 花咲翁

AI・半導体を個別に狙う

雇用統計発表を控え、引き続き上値は重く、週明けも4万円大台固めの動きが続くことが予想されています。為替の動向に神経質になりつつあることから、シフトが予想される一方、権利落ち日以降強い動きを見せているのはディスコなど半導体関連の一角で、IPOラッシュが続いていることから、引き続きAI・半導体関連銘柄を個別に狙う考えです。



不動産緩和的環境継続

19日、三井不動産(8801)、住友不動産(8830)、三菱地所(8802)の不動産大手が軒並み値を上げた。日銀は金融政策決定会合でマイナス金利政策解除を決めたが「当面、緩和的な金融環境は継続される」としていること

で、国内金利の上昇は抑制されるとの見方から不動産大手への買いが誘発されたようだ。

サンバイオはストップ安

サンバイオ(4592)がストップ安。同社は18日の取引終了後、国内SB623慢性期外傷性脳損傷プログラムの製造販売承認取得の状況を公表、開発品SB623である「再生医療等製品」アクーゴ脳内移

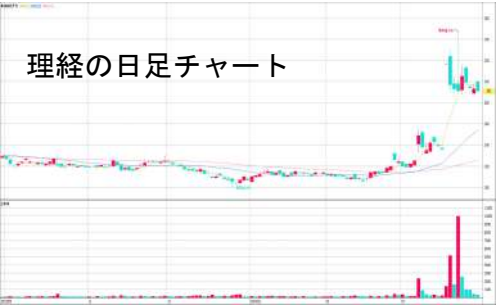
エクサウィズはAI創薬

エクサウィザーズ(4259)がストップ高。第一三共(4568)とのAIを活用

マイクロ波最終赤字

マイクロ波化学(9227)がスト

した創薬プロジェクトで成果が出たことを発表した。難易度の高い標的タンパク質に関するヒット化合物を短期で同定している。



理経の日足チャート



休日明け21日、ファーストアカウンティング(5588)が急反発、ストップ高まで買われた。4月30日を基準日に1株を2株へ株式分割を実施すると発表されたことが好感され、投資単位当たりの金額を引き下げ、投資しやすい環境を整える。株式分割に伴い、定款を一部変更し、発行可能株式総数を189万4800株から34万7800株に増

ファーストAストップ高

1対2株式分割を好感

やした。

公開価格67%上回る

STGの初値
STG(5858)が東証グロース市場に新規上場、公開価

サツドラHD利益確定売り

で昨年来高値を大幅に更新していた。物価上昇による生活防衛意識の高まりを受け、1人あたりの買

サツドラホールディングス(3544)が大幅反落。同社は19日の取引終了後の24年5月期の第3四半期累計(5)2月)決算を発表、連結営業利益で前年同期比2.7倍となったが利益確定売りに押された。前日まで4連騰

格1920円を67.4%上回る3215円で初値が生まれた。マグネシウムとアルミニウムダイカストの軽量化金属部品の設計・製造、金属部品の鋳造、機械加工、シヨットブラスト、仕上げ、化成処理、塗装、組立までを行う。

とや、新型コロナウイルス感染症の沈黙化にもなう関連商品の売上減少はあった。や季節品が好調だった。

公開価格30%上回る

トリアルHDの初値
トリアルホールディングス(141A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格1700円を30.3%上回る215円で初値が生まれた。小売、物流金融・決済、リテールテックなど、各事業を中心とした企業グループの企画・管理・運営を行う。

参加費無料！4月20日(土)第8回セミナーin大阪

最高値更新後の日経平均はどうなる!?

主催：株式市場新聞 時間：14時～16時 受付・開場13時 参加料：無料
申込はTEL06-6105-1904またはinfo@marketpress.jp まで

「プロの銘柄選びと売買タイミング」 225先物で資産を大幅に増やす!!

これから上昇する特選銘柄5銘柄を教えます

数々の株式コンテストで優勝した岡山憲史さんが登壇



岡山憲史氏(株式会社マーケットバンク代表)1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」約1万人の参加者の中から優勝のほか、多くのコンテストで優勝。1カ月間の3銘柄合計パフォーマンス155%と断トツ。週刊現代や週刊ポスト、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行い、個人投資家に投資情報サービスを提供。

会場：第一住建長堀橋駅前ビル1Fセミナールーム
大阪市中央区南船場2丁目3-6第一住建長堀橋駅前ビル1階
【TEL】06-6105-1904

堺筋線・長堀鶴見緑地線長堀橋駅 2-B出口 徒歩1分
御堂筋線心斎橋駅 クリスタ長堀経由 徒歩5分



C&FロジHDがS高

AZ-COM丸和TOBで買収

週末2日、C&Fロジホールディングス（9099）がストップ高。AZCOM丸和ホールディングス（9090）が完全子



会社化を目指してTOBを実施すると発表したことを受け、買い付け価格3000円にサヤ寄せして水準を切り上げた。AZ丸和は経営統合に向けた協議を行っ

ていたが、同社が協議を中止したため、TOBによる買収に乗り出す構え。同社は「事前の連絡を受けていない」として、今後の対応については関連情報を分析、検討したうえで改めて知らせるとしており、今後の対応次第ではTOB価格引き上げも想定される。

シャープ液晶DIP縮小報道
シャープ（6753）が急伸。日本経済新聞電子版が「液晶ディスプレイ事業を縮小する方向で検討していることが分かった」と報じたことがポジティブ視されたと発表したこと、

転ばぬ先のテクニカル
3カ月続伸
3月相場が終わりましたが、日経平均は3カ月続伸となりました。振り返ると1月相場は2822円高、2月相場が2880円高で3月相場が1203円高です。年始から急騰となりましたが、伸びが縮小してきました。月足は十字足に近い陽線形成となりました。一方で先週の週足は反落し先々週の陽線に十字足陰線が孕みました。一旦、上値が悶え出した印象です。

今週から4月新年度相場が始まりますが、気を付けねばならないのは為替介入です。Bloombergによるとリバースレポ（RRP）ファシリティの利用額が2週連続で増加したということです。日銀がTBなどを売却し、市場介入資金を確保した可能性があります。また、世界中の株式市場を牽引してきたエヌビディア株がダブルトップを形成した可能性もあり、新年度相場は慎重に見ていく必要があります。 日々勇太郎



3月第5週の動意銘柄

高Sエクエア 優待制度を導入

週明け25日、エクエア（8912）がストップ高。同社はこの日11時から30分に株主優待制

度の導入を発表したことが好感された。毎年6月末現在の株主名簿に記載された10単元（1000株）以上を保有の株主を対象に3000円分QUOカードが寄付が選択できる。同社株式への投資の

魅力を向上させ、より多くの株主に中長期的に保有してもらうことを目的としている。

公開価格の2.3倍
ジンジブの初値
前週末に東証グロス市場に新規上場

したジンジブ（142A）はこの日、公開価格1750円に対して2.3倍となる3980円で初値が生まれた。同社は高卒就職採用支援サービスと人財育成サービスを

潜在的希薄化が警戒された。転換価額は1897円でアップ率は15%。調達資金600億円は日本風力開発の買収のため

レントラックス配当利回り
レントラックス（6045）がストップ高。22日取引終了後、24年3月期の期末一括配当を12円から22円（前期21円）に引き上げたことを

小林製薬ストツプ安

紅麹サプリで腎疾患など発生

25日、小林製薬(4967)がストツプ安。機能性表示食品「紅麹コレステヘルプ」を摂取した人で、腎疾患等が発生したとの報告を受けたと発表したことが嫌気された。これを受け、同製品とそれに使用している紅麹原料(自社製造)の成分分析を行った結果、一部の紅麹原



料に意図しない成分

企業観察 ハリマ化成G(4410)

V字型収益回復へ期待

ハリマ化成グループ(4410)はV字型収益回復へ期待が高まってきた。24年3月期は前回予想の売上高910億円を930億円(前期比1.6%減)、営業損益14億円の赤字を4億5000万円の赤字(前期17億6000万円の黒字)に増額したが修正値はクリアできた模様。25年3月期は売上高1000億円大台乗せと黒字浮上は既定路線のようで、需要分野をとらえた一段の売上げ拡大と収益改善がポイントになっている。前期は原料価格高騰に対応した販売価格引き上げが進み、第2四半期を底に赤字が大きく縮小した。

需要分野とらえ売上拡大と収益改善

一方で欧州市場の需要低迷の影響が続くローター事業を除いて、各分野需要が着実に回復している。電子材料はんだ材料事業買収効果で売上高は100億円規模に倍増、自動車向けは海外ユーザーが広がり、需要開拓も順調に進んでいるほか、半導体向けフォトソルダレジストが伸びている。製紙用薬品は国内と中国が厳しい中でも堅調に推移しており、環境意識の高まりを背景に古紙の利用が進み始めた北米でダンボール向け紙力増強剤を拡販していく方針で、低迷が続くローター事業は製品構成を見直すことで収益を改善する。

が含まれている可能性が判明したという。

紅麹関連製品の自主回収を行っているが、

今後の影響が懸念された。

サンバイオ承認ならず

する意義はあると評

26日、サンバイオ(459)がストツプ安。厚生労働省の薬事・食品衛生審議会再生医療等製品・生物由来技術部会で、SB623の再生医療等製品「アクトゴ脳内移植用注」が継続審議とされた。臨床現場に提供

26日、サンバイオ(459)がストツプ安。厚生労働省の薬事・食品衛生審議会再生医療等製品・生物由来技術部会で、SB623の再生医療等製品「アクトゴ脳内移植用注」が継続審議とされた。臨床現場に提供

公開価格の2倍

インシンの初値

前日に東証グロース市場に新規上場したインシン(143A)はこの日、公開価格は1080円の2.07倍となる2234円安で初値をつけた。企業の自治体向けマ

公開価格96%上回る

JSHの初値

JSH(150A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格456円を95.8%上回る893円で初値をつけた。地方創生事業(障がい者雇用支援サービス、観光物産サービス)、在宅医療事業(精神科訪問診療コンサルティンク・訪問看護サービス)を行う。

公開価格80%上回る

ソラコムの初値

ソラコム(147A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格870円を79.7%上回る1563円で初値をつけた。IoTプラットフォーム

公開価格30%上回る

LisBの初値

LisB(145A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格1188円を30.7%上回る1553円で初値をつけた。フィードバック向けビジネスチャット「direct」を中心とした現場DXサービスの開発・提供を行う。

公開価格30%上回る

ハッチワークの初値

ハッチワーク(148A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格2160円を30.3%上回る2815円で初値をつけた。月極駐車場検索ポータルサイト「アットパークینگ」、月極駐車場オンライン管理支援サービス「アットパークینگクラウド」の提供と貸し会議室サービス「アットビジネスセンター」を運営する。

企業レター

新しい事業領域へ進出

上場後4回目の株主総会開催

株式会社ダイレクトマーケティングミックス
第7期 定時株主総会



小林祐樹社長は手際よい議事進行

議事進行が目を引いた。また、シナリオを読む際には時折下を向いて目を通す程度で終始、株主席を見て報告、わかりやすい説明を行っており、入念な準備を垣間見ることができた。他方、質問を受ける際には再三にわたり質問を促すなど、株主総会が株主との対話の場であることを十分意識しているように感じた。株主からは将来におけるブランドデザインについてなどの質問がだが、分かりやすい説明が印象に残った。今後の戦略については新規事業戦略としてM&Aの推進などにより新たな事業領域への進出を図り、ビジネスチャンスを開いていくとし、これに対応すべくDXの活用や優秀な人材の育成・確保により、顧客ニーズに対応した需要拡大を図る。DXの推進を図るべく、成長ドライバーであるコンタクトセンターではAI(人工知能)を活用した最適なシステム導入で適切かつ迅速な対応を実現し、顧客満足度の向上を図る考えだ。

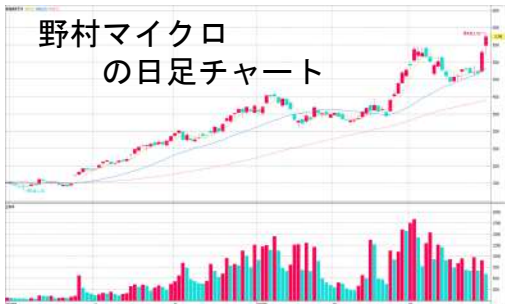
りやす
く、手
際よい

DM-iX

北区)で第7期定時株主総会を開催した。

2020年10月に東証1部市場(現・プライム市場)に上場してから今年4回目の株主総会となった。招集通知はフルカラーで見やすくなる工夫がなされているうえ、議長を務める小林祐樹社長も通る声で議事を進めるなど、全体として聞き取

りやす
く、手
際よい



野村マイクロ一時S高

SKハイ新工場に絡み受注期待

野村マイクロ28日、SKハイ新工場に絡み受注期待。SKハイ新工場が稼働し、半導体製造装置向け水処理工場の建設が進んでいると伝

週末29日、フィードフォースグループ(7068)が急落。24年5月期予想を売上高で44億7200万円から41億9700万円

FフォースG下方修正

(前期比5・8%増)、営業利益で14億円から12億500万円(同17・1%増)へ下方修正した。DX事業の新規受注金額が減少。

不動産関連軒並み高。グローバルリンクマネジメント(3486)、ロードスターキャピタル(3482)など不動産関連軒並み高。24年の公示地価が全国平均で前年比2・3%上がり、伸び率はバブル期以来33年ぶりの高さとなり、プライム市場では三菱地所(8802)を筆頭に不動産株が軒並み買い進まれたことを受けて、出遅れた感覚で買いの手が回った。

公開価格88%上回る。カウリスの初値カウリス(153A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格1530円を87・9%上回る2875円で初値が生まれた。法人向けクラウド型不正アクセス検知サービスの提供などを行う。

待された。3月31日を基準日に1対4株式分割を行うことから権利取りの動きも活発化した。

不動産関連軒並み高

公開価格2.2倍。情報戦略の初値情報戦略テクノロジ(155A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格460円の2・21倍となる1021円で初値をつけた。大手企業向けDX内製支援サービスなどを手掛ける。

公開価格2.2倍

長期上昇スタート台

日本株の優位性は継続

光世証券
取締役 西川 雅博 氏

2月に歴史的な高値を更新した日経平均だが3月以降はやや上値の重い展開となっている。年初から3月22日高値までの上昇率が24%に達しスピード調整はやむを得ないだろう。日銀の金融政策変更という中銀ウィークを波乱なく通過して一時的に安心感が広がったが、期末最終週の需給悪が影響した面もあったようだ。

織り込んでいくイメージだろう。それでも5〜6月頃には景気動向に賃上げ効果の道筋が見えてくると予想する。特にデフレ時代のバリュートラップ（割安株が割安のまま買われない状態）が解消される動きに注目している。

米国は次の緩和開始を待つ期間にあり、市場の関心が利下げ時期や年内の利下げ回数に集まっている。いずれにせよ、過去のケースでは最終利上げから1年〜1年半程度は利下げ転換期待でリスクオンになり株高が続くことが多い。今回の場合だと昨年の7月を起点に今年の7月から年末にかけてまでとなる。また、大統領選の年は9月〜11月の投票日頃まで調整するというアノマリーがあり、時期が重なることには注意が必要だろう。そうした相場波動への警戒やPERなどバリュートラップで割高感が出てきた米国株に対して、日本株の優位性は当面継続すると見る。3月以降、米国では金融緩和期待のけん制、日本では緩和的金融政策の長期化が示唆された。真逆の動きとは言え、両中央銀行とも市場の過剰反応を抑制して持続的成長の達成に向けての情報発信と見るべきだろう。

米国では昨年来相場をけん引したエヌビディアなどテック株の勢いにやや陰りが見られる。5月決算発表が一巡するあたりまでは、市場の関心は半導体などのテーマというより個別銘柄全般の業績見通しに集約されそう。現在のところ、大手証券など主要調査機関アナリストによる25年3月期業績予想は全体で5〜10%の増益である。これをベースに足元の為替動向や会社発表数字とのギャップが株価変動要因となる。ただ、今年は大手のベア満額回答が続



出するなど長期間にわたって未経験だった事象が起きてくる。株式相場にはポジティブなはずだが、会社発表や市場バイアスは実態より慎重方向に働きがち

相場展望

である。時間をかけて構造変化の好転を

金利差が簡単に縮まらないとしてドル円相場は約34年ぶりの円安水準をつけた。相場が反転して円高に向かうことを株安要因と警戒する向きがあるが、仮にそうした動きが見られても短期波動の範疇に留まると考える。日本株の構造変化を反映する長期上昇相場はスタート台に立ったばかりとの時代認識で取り組みたい。個別にはTOYO TIRE(5105)、ヤマハ発(7272)、野村HD(8604)。

高ストップ製作小糸

11%強の自己株式取得枠設定

29日、小糸製作所(7276)がストップ高。同日の取引終了後、自己株式取得枠の設定を発表、上限は3500万株(発行済株式総数に対する割合11.37%)

また500億円と規模が大きく、浮揚効果が大きいとの判断で、株価が年初来安値圏にあつたことから買いを集めた。

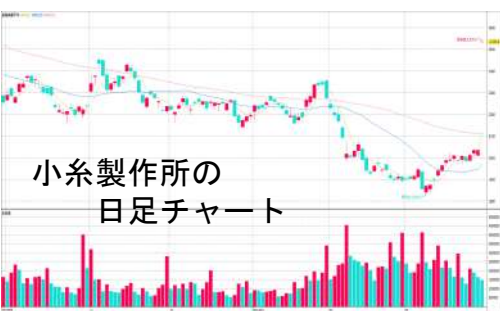
取得期間は4月1日〜25年3月24日。機動的な資本政策の遂行のため。「第1次中期経営計画」にて2024〜2028年度(5カ年)累計で2000億円以上の株主還元を実施するため。

公開価格74%上回る

Gモンスターの初値グリーンモンスター(157A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格980円を73.5%上回る1700円で初値が生まれた。同社は体験型投資学習支援事業を行う。

公開価格8%下回る

マテリアルGの初値マテリアルグループ(156A)は東証グロース市場に新規上場、公開価格180円を8.1%下回る1085円で初値が生まれた。PR・デジタルを中心としたマーケティングコミュニケーション支援を行う。





筆者が大学を卒業して社会人になったのが1989年（平成元年）。日経平均を毎日確認する仕事をしてきたが、連日高値を更新することに驚いたのを覚えている。そこから年末に3万8915円87銭の高値を付けたあとは、日銀の利上げなどを契機にバブルが崩壊となり、山一証券の破綻などを経て日本経済は奈落の底に落ちて行ってしまった。

その当時と状況は全く異なることから、今年を高値に株価が急落するかどうかは分からないが、平成のバブル崩壊と同じ轍を踏まないで欲しい。株価は経済のバロメーターでもある。適度な調整を経て上昇が続くならば新社会人も希望が持てる未来を描くことができるだろう。



星野三太郎の株街往来

～平成元年の高値と今年の高値～

4月に入り名実共に新年度入りとなる。毎年、この時期に大阪市内のビジネス街を歩くと紺のスーツを纏った新入社員の一団を見かけることが多くなるが、日経平均が最高値を付けた年に社会人になるんだなと考えていたら、筆者の社会人1年目を思い出してしまった。



New product

モスフード

まぜるシェイク あまおう
いちごの酸味や香りしっかり

まぜるシェイク あまおう



モスフードサービス（8153）は全国のモスバーガー店舗（一部店舗を除く）において「まぜるシェイク あまおう」を5月下旬までの期間限定で発売している。

モスのバニラシェイクに、福岡県産「あまおう」を使用したいちごソースを合わせている。ソースに使用している「あまおう」は、粗めに刻んで果肉感を残しており、いちごの酸味や香りをしっかりと感じられるように仕上げている。甘酸っぱいいちごの味わいが、春の季節にぴったりのドリンクで、いちごソースとバニラシェイクを混ぜ合わせながら楽しむ。セット価格に130円追加で、Mサイズをセットドリンクとしても選べる。

ダスキン

misdo meets 祇園辻利
宇治茶専門店と共同開発



misdo meets 祇園辻利

ダスキン（4665）が運営するミスタードーナツは、宇治茶専門店「祇園辻利」と共同開発した「misdo meets 祇園辻利 第一弾」全5種を5月下旬までの期間限定で発売している。

第一弾では香り、色、苦み、旨みが特長の祇園辻利の宇治抹茶をミスタードーナツ史上最も多く練りこんだ「お濃いドーナツ」2種が登場。新しく開発したドーナツ生地はしっとりとした食感でたくさん練り込んだ抹茶の味をより引き立てている。人気のポン・デ・リング生地に抹茶を練り込んだポン・デ・抹茶生地を使用した3種も登場。今年はより抹茶との相性を追求し生地を柔らかく改良。新しくなったもちもち食感のポン・デ・リング生地と祇園辻利の宇治抹茶の組み合わせが魅力。第二弾も4月24日から発売予定。

潮流

主役は個人投資家

例年4月は月末高の季節性

marKet / bAnk

を付けた。1999年7月以来34年ぶりの円安水準だ。3月19日に日銀がマイナス金利を解除した後も低金利は変わらないとの見方から、金利差に着目し、低金利の円を借りて他の通貨を買う「円キャリー取引」が再加速していることが背景にある。

マイナス金利政策解除直前に発表された春闘での賃上げ率が、予想を大きく上回ったことで、金融市場での先行きの物価見通しも引き上げられた可能性がある。

実質政策金利（名目政策金利－予想物価上昇率）の見通しが低下したことも円安につながった。1ドル＝152円を越えると円買い介入があるのではないかと警戒感が出ている。実際に152円台まで円安が進めば介入を行なうだろう。植田日銀総裁は財務省や鈴木財務大臣の圧力に弱いからだ。その場合、「円買い・株売り」が拡大して株式市場は下落する。しかし、大幅に下落すれば買い場を待っている個人投資家の買いが期待できる。

3月第3週（18日～22日）の投資部門別売買状況では、個人が現物と先物の合計で8533億円の売り越しとなった。個人は3月第2週（1



外国為替市場で円安が進み、3月27日に円相場が1ドル＝151円97銭

は6676億円売り越した。この間の日経平均は2000円以上も上昇している。個人投資家の逆張りに軍配が上がった。

通常は外国人投資家の売買で相場が左右することが多い。特にヘッジファン

ドの株価指数先物取引に個人投資家が振り回される。今までには無いような個人投資家の売買のボリュームに外国人投資家も無視はできなくなる。個人投資家が主役の時代到来だ。米資産運用大手ブラックロックが日本株に対する見通しを引き上げた。投資評価を引き続き「オーバーウエート（強気）」とした上で、半年から1年後の見通しを7段階で上から3番目の「プラス1」から2番目の「プラス2」に修正した。引き上げは2023年9月以来だ。

穏やかなインフレ、力強い収益成長、企業統治改革などすべてが好材料とした。例年、4月の日経平均株価は、上旬は堅調で中旬は伸び悩み、月末に向けて一段高となる季節性がある。下がれば買いのチャンスだ。

潮流銘柄はSBIホールディングス（8473）、JFEホールディングス（5411）、みずほフィナンシャルグループ（8411）。

は6676億円売り越した。この間の日経平均は2000円以上も上昇している。個人投資家の逆張りに軍配が上がった。

通常は外国人投資家の売買で相場が左右することが多い。特にヘッジファン

ドの株価指数先物取引に個人投資家が振り回される。今までには無いような個人投資家の売買のボリュームに外国人投資家も無視はできなくなる。個人投資家が主役の時代到来だ。米資産運用大手ブラックロックが日本株に対する見通しを引き上げた。投資評価を引き続き「オーバーウエート（強気）」とした上で、半年から1年後の見通しを7段階で上から3番目の「プラス1」から2番目の「プラス2」に修正した。引き上げは2023年9月以来だ。

穏やかなインフレ、力強い収益成長、企業統治改革などすべてが好材料とした。例年、4月の日経平均株価は、上旬は堅調で中旬は伸び悩み、月末に向けて一段高となる季節性がある。下がれば買いのチャンスだ。

潮流銘柄はSBIホールディングス（8473）、JFEホールディングス（5411）、みずほフィナンシャルグループ（8411）。

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。<http://marketbank.jp>



岡山 憲史氏（株式会社マケットバンク 代表取締役）のプロフィール
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

ブラックロック見通し引き上げ

新年度相場は内需株？

TOPIX最高値がターゲット

先週の日経平均は前週末比約518円安と反落、2週間ぶりに週足陰線となった。円安により半導体関連株が上昇を牽引していた相場展開であったが、鈴木財務相が「行き過ぎた動きにはあらゆる手段を排除しない」と円安を牽制したため警戒感が広がり上値を重くした。

相場は今年に入り3月末まで日経平均で20・6%、TOPIXは17%

上昇した。この伸びは1988年以来、36年ぶりの上昇であるが、円安に一般感がでると半導体関連株とは違う牽引が必要となってくる。日銀が19日にマイナス金利の解除に踏み切ったが、2000年以降に利上げをしたのは3回あった。2000年8月、2006年7月、2007年2月だが、利上げ後150営業日の業種別株価騰落率の平均を取ると首位は不動産業（平均17%上昇）であつ

た。以下、エネルギー・資源株（12%）、運輸・物流株（8%）となるが内需株中心であった。今回も不動産株が買われているが、4月からの新年度相場では内需株の物色が中心となりそうである。日経平均は過去最高値を更新したがTOPIXでは最高値（2884・80）を抜け

ていない状況である。4月相場はTOPIXの最高値更新をターゲットとした内需株中心の相場展開になると予想する。しかし、高値圏の現在では押し目買いに徹するのが良さそうである。



敏腕先物ディーラー ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



為替介入あるか？（財務省）

ドル円の日足チャート



TOPIXの日足チャート



日経225先物の日足チャート



今週のレンジは3万9900円から4万1000円を想定する。為替介入を警戒して上値は重そうである。（ハチロク）

相場見通し

記者の視点

週明けの相場見通し

手掛り難で週明けも膠着

安川電とファストリ決算注視

3月最終週の東京市場は、27日には権配当取りの動きから日経平均は3日ぶりに反発となり、前日比3.64円70銭高で引けていたが、権利落ちの翌日28日は下げ幅を拡大させ、600円超下げた場面があった。3月調査日銀短観、国内では1日に修正で、「建設業」、「自動車運送業」、「医療師」への時間外労働時間の上限基準が適用となることから、これらに絡む業種では人手不足対応への不安も高まることになる。その2月期企業の通期決算発表

3月最終週の相場見通しは、週明けの相場は、27日には権配当取りの動きから日経平均は3日ぶりに反発となり、前日比3.64円70銭高で引けていたが、権利落ちの翌日28日は下げ幅を拡大させ、600円超下げた場面があった。3月調査日銀短観、国内では1日に修正で、「建設業」、「自動車運送業」、「医療師」への時間外労働時間の上限基準が適用となることから、これらに絡む業種では人手不足対応への不安も高まることになる。その2月期企業の通期決算発表

安川電機は、3月期決算で、売上高が前年比10%増、営業利益も10%増と、好決算を挙げた。ファストリは、3月期決算で、売上高が前年比10%増、営業利益も10%増と、好決算を挙げた。

27日には日銀の田村直樹審議委員が青森市内で講演し、正常化は「ゆっく」と着実に」と語ったことが上値追いに拍車をかけていたが、3月期末で機関投資家が動けないうえ、29日に欧米市場が聖金曜日休みとなり海外投資家も動きにくい状況下では、唯一の買い主体と見られていた個人投資家による権利落ち後の手仕舞い売りで値を消す動きになったようだ。

3月調査日銀短観、国内では1日に修正で、「建設業」、「自動車運送業」、「医療師」への時間外労働時間の上限基準が適用となることから、これらに絡む業種では人手不足対応への不安も高まることになる。その2月期企業の通期決算発表

当面のスケジュール

- 1日 3月調査日銀短観
米3月ISM製造業景況指数
- 2日 3月マネタリーベース
- 3日 米3月ADP雇用統計
米3月ISM非製造業景況指数
- 4日 日銀支店長会議
地域経済報告(さくらレポート)
米2月貿易収支
- 5日 2月家計調査
2月景気動向指数
米3月雇用統計
- 8日 2月毎月勤労統計調査
3月景気ウォッチャー調査
- 9日 3月消費動向調査
- 10日 3月国内企業物価指数
米3月消費者物価
3月19・20日開催のFOMC議事録
- 11日 3月マネーストック
中国3月生産者物価、中国3月消費者物価
ECB定例理事会(ラガルド総裁会見)
- 12日 オプションSQ
中国3月貿易収支

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らたいたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。



大谷翔平選手の元通訳、水原一平氏の違法賭博問題で話題が持ちきりになった。借金膨大な額に膨れ上がったのは、大谷の存在があったことは間違いなく。水原氏は自身をギャンブル依存症と告白しているが、依存症は孤独の病とも言われ、症状に気付かない、認めない、相談できない、周囲のサポートが必要ない、精神疾患で、明るみになったのは不幸中の幸いかもしれない。借金を重ねていたらどうなるか。最高値圏にある東京市場だが、休むも相場かも。

編集後記